

振器や、より分解能に優れたレーザ干渉計の開発に成功したことにより、0.1 Hz～2 Hz および 5 kHz～10 kHz を校正範囲とする振動測定装置（図 4、5 参照）を追加する。

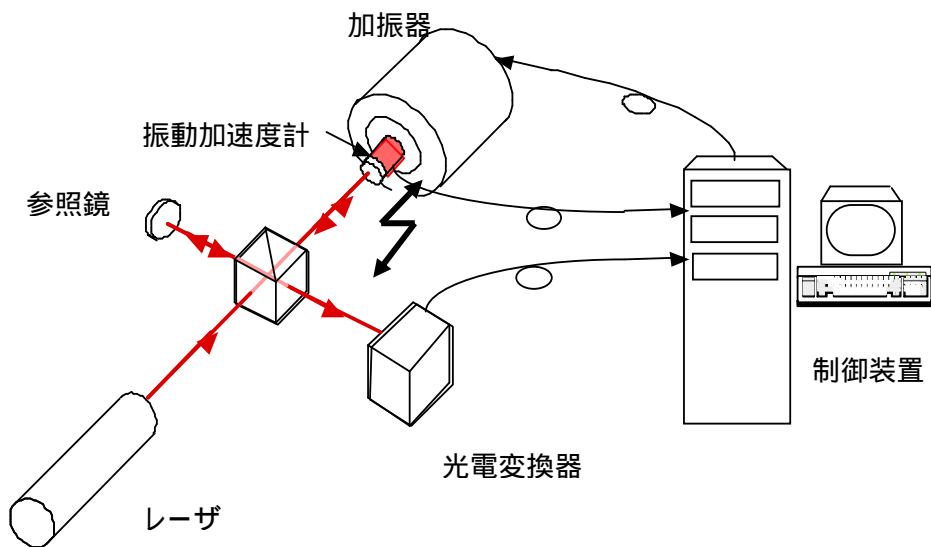


図 1 特定標準器による校正の原理

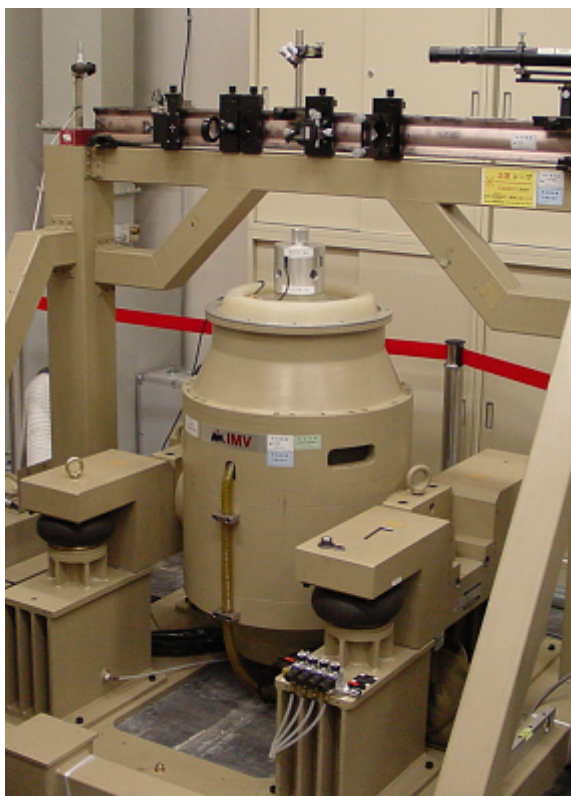


図 2 特定標準器（既存：1 Hz～200 Hz）

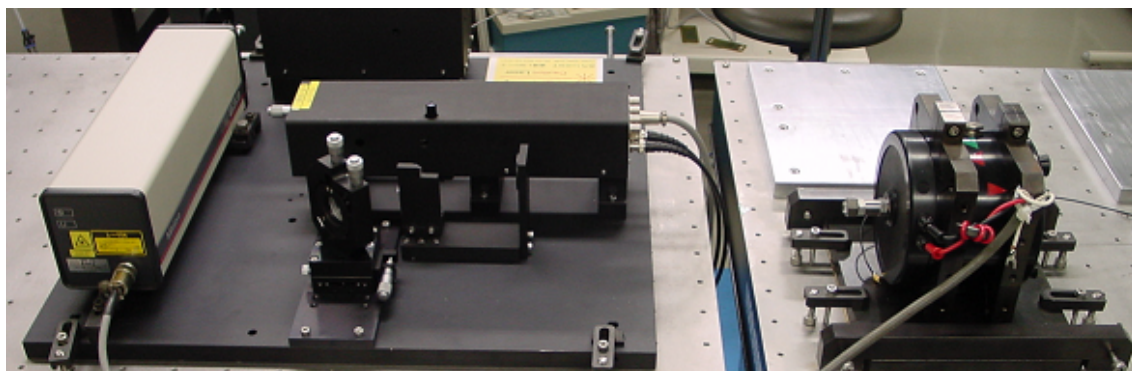


図3 特定標準器(既存：20 Hz～5 kHz)

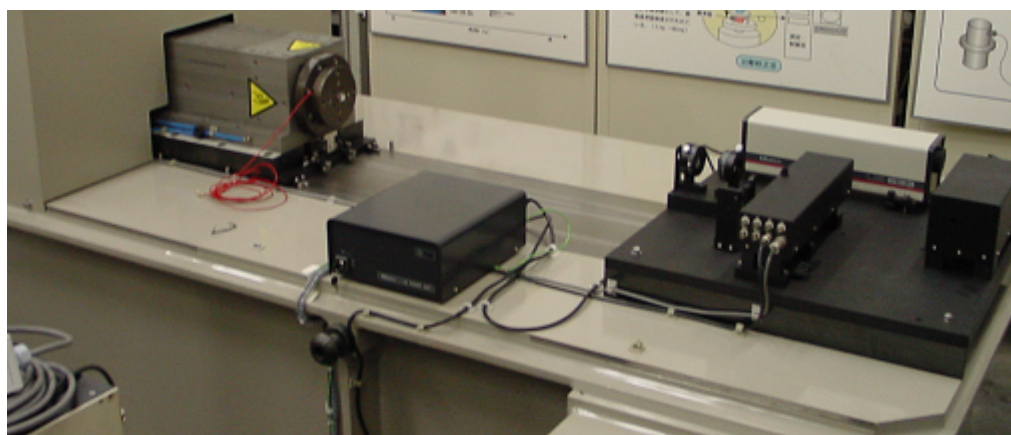


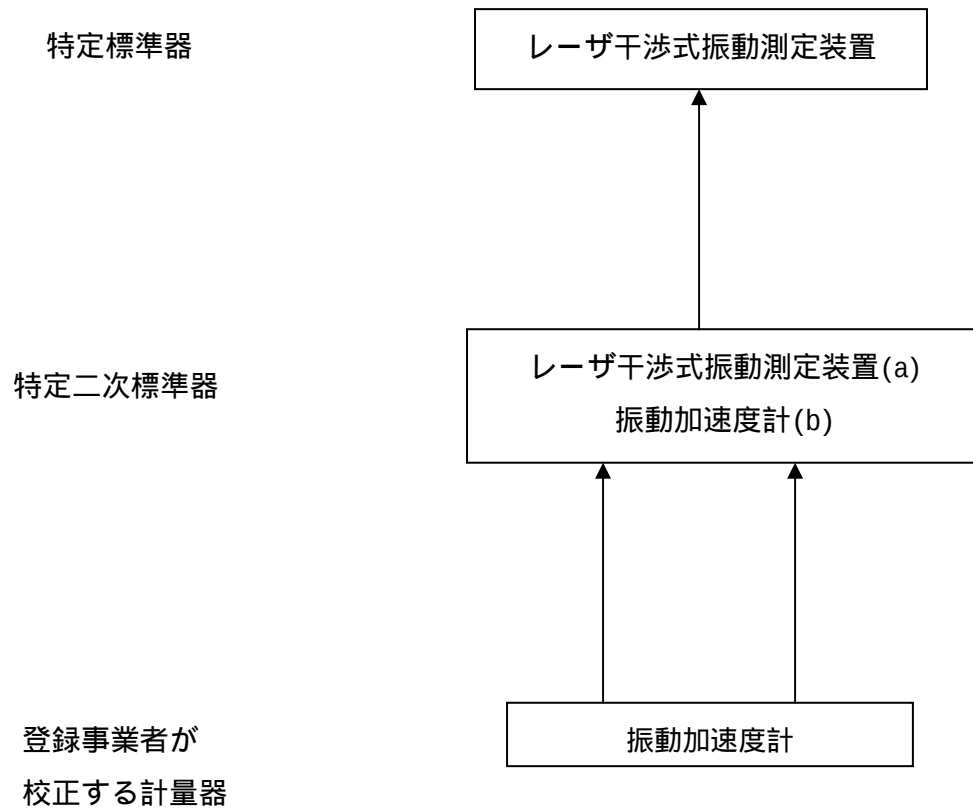
図4 特定標準器(低周波測定装置：0.1 Hz～2 Hz)



図5 特定標準器(高周波測定装置：5 kHz～10 kHz)

6. トレーサビリティの体系図及び測定の不確かさ

(1) トレーサビリティの体系図



(2) 測定の不確かさ

特定標準器による校正等における測定の拡張不確かさ ($k = 2$) は、最も小さいところで 0.3 % を想定している。

登録事業者が行う校正における測定の拡張不確かさ ($k = 2$) は、最も小さいところで 0.5 % を想定している。